

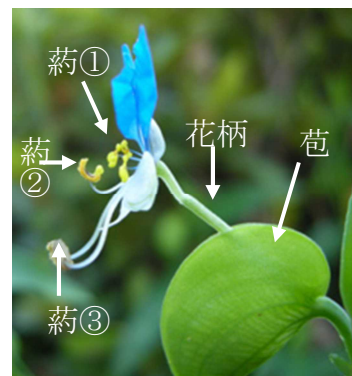
ツククサの花は面白い

1. 開花している時間

早朝、夜明けとともに開花し、正午前には花を閉じてしまいます。露の付く時間帯に開花しているからか、露のようにはかないからか、花弁が溶けるように無くなり色失せていく様は、日本人の自然観にあっているようです。たくさんの蕾(つぼみ)があるため、毎日咲いているようにみえます。

2. 花の構造

二枚貝の殻のように蕾の集まりを包んでいる円盤状の部分を苞(ほう)といいます。葉が変形したものです。開花時には花柄(かへい)が伸びてこの苞から花が外部へでます。花は原則、青色で大きな上向き花弁が2枚と色の薄い小さな下向きの花弁が1枚、透明な萼片(がくへん)が3枚、おしべが6本、めしべが1本あります。おしべには、上に黄色で花糸の短いもの(葯①)が3本、黄色で花糸の長いもの(葯②)がめしべの上に1本、下に茶色で花糸の長いもの(葯③)が2本と、3種類あります。これらは形態・機能も異なります。



めしべのない雄花

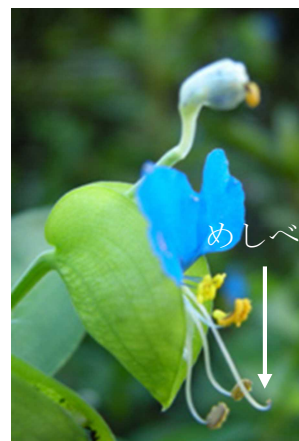
花柄:花をつけている柄

葯(やく):花粉が入っている袋

花糸:葯を支えている柄

3. 花の性

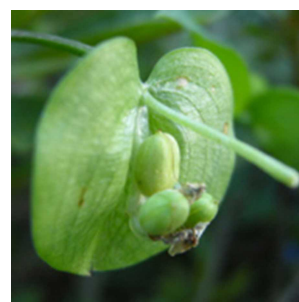
一つの苞で最初に開花する雄花はめしべを持ちませんが、その後には咲く両性花はめしべと3種のおしべをすべて持ちます。雄花は斜上する長い花柄につき、両性花は下にある短い花柄に3個くらいつき、日をおいて開花します。開花の終わった苞を開いてみたものが右下の写真(ツククサの果実)です。



ツククサの両性花

4. 花の各部の役目

ツククサには蜜腺がなく、開花時間も短いので昆虫の花粉運搬への依存は不利です。そのため、下2本のおしべとめしべを巻いて花を閉じるとき自家受粉します。上の黄色いおしべ4本は役立つ花粉を持っていません。では、何のために花弁や上のおしべがあるのか調べてみました。取り除いて虫がくるかどうか観察した結果、花粉を食べる虫にとって花弁は遠くからの、黄色い葯は近づいてからの目印になっていることがわかりました。黄色の役立たない(稔性がない)花粉を食べさせ、稔性がある茶色の葯の花粉運搬が時おりおこることを期待して、他家受粉による遺伝的多様性維持にかけていたのです。



ツククサの果実